

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【宮前中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	数学では、来年度は、今年度に引き続き関数・データの活用の分野について、市の正答率を上回ることを目指していきたい。そのために、数学的活動を行う中で、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りたい。
思考・判断・表現	国語では、来年度は書くことの分野の「書いた文章を読み返し、文や段落の役割が適切であるか検討し、文章を整えることができる」を市の正答率を上回ることを目指す。そのために推敲の仕方や着目する視点を示し、引き続き生徒同士でも評価し合って意識を高めていく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 数学では、「データの活用」の分野全般において、課題がみられる。 【指導上の課題】 習得した知識や技能をブラッシュアップする活動が十分でない。	⇒ 知識・技能を習得させるための小テストや演習(スタディサプリやドリルパークの活用も含む)、話し合い活動を充実させる。生徒の学習履歴を確認して、授業に反映させていく。【毎時間設定】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 国語では、学習指導要領の領域「話すこと・聞くこと」を問う設問の正答率が低い。 【指導上の課題】 話の構成や表現の方法を工夫し、伝え合う場面が不足している。	⇒ 生徒に話す原稿を作成させる際など、工夫点や評価基準を明確に示す。教員がフィードバックするだけでなく、生徒同士で相互に評価し合えるようにする。【毎時間設定】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	数学では、小テストや単元テストを定期的に行い、生徒の実態に応じて指導することができた。また振り返りシートを活用することで、生徒は自己のつまずきを改善しようとする姿が見られた。授業では、数学的活動の中で、他者と協働する場面を多く設定できた。
思考・判断・表現	B	国語では、毎時間評価基準は明確に示し、共同編集を用いて生徒同士で相互に評価する時間を設けることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、ほとんどの項目で平均を上回ってはいたが「話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」問題に課題が見られた。意見と根拠など、情報と情報との関係性への理解度が不十分だったため、今後の読解の授業の中でも文章中の言葉や文の関連性に着目させていきたい。
思考・判断・表現	数学では、ほとんどの項目で平均を上回っていたが、「データの活用」の問題について課題が見られた。特に、「複数の集団の分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」に課題があるので、普段の授業から見方・考え方を働かせた数学的活動を大切にし、事象を論理的に考え表現させていきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	数学では、特に関数・データの活用の2分野で課題が見られた。一次関数や反比例の式で表すことをねらいとした設問では、市の正答率を5%程度下回っている。授業の中で、関数関係を表や式、グラフを活用して一体的な理解ができるような展開の工夫をしていく必要がある。
思考・判断・表現	国語では、話し合いを円滑に進行するために考えを尊重することをねらいとした設問で、市の正答率より3%上回ることができたのは、日頃から生徒同士を話し合わせたり共同編集を用いてお互いの意見を評価し合ったりした結果であると考えられる。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	小テストや演習は定期的に行い、基礎的な計算の反復と習熟を図った。話し合い活動については、授業の中で時間を確保する工夫が必要である。学習履歴の活用も研究が必要である。	変更なし
思考・判断・表現	B	原稿やスピーチの資料を作成する際には、工夫点や評価基準を毎時間示すことができた。それにより、生徒同士で相互に評価することもスムーズにできた。しかし、評価し合う時間を毎時間取ることができなかった。	引き続き工夫点や評価基準を明確に示し、生徒同士で相互に評価し合う時間を設ける。そしてどの部分がよかったのか教員がフィードバックする。【毎時間実施】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)